石川県立美術館だより

平成19年9月1日発行　第287号

名所江戸百景 高輪 うしまち　歌川 広重

日本の美

人・鳥・花・そして風景

人麿呂画像 室町時代

9月4日(火)～9月20日(木)　会期中無休
会場:石川県立歴史博物館

目　次

リニューアル工事にあたって…… 2
日本の美…… 3
古九谷と日本の工芸Ⅰ…… 4
れきはく展示室のご案内…… 4
講演会記録…… 5
ミュージアムレポート…… 6
夏休み 親子で楽しむ美術館…… 6
第5回バスツアー募集…… 7
当館の所蔵品が見られる美術館…… 7
移動美術展ご案内…… 8
所蔵品紹介…… 8

URL　http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/

リニューアル工事にあたって

石川県立美術館館長　嶋崎　丞

ご存知のとおり、いよいよ九月三日より、リニューアル工事のために約一か年間の休館に入ります。最近私のところへ、あんな立派な美術館のどこをリニューアルする必要があるのか、という電話がかかってくるようになりました。それだけに現在の美術館の建物について、深い関心をお持ちの方が随分多くおられるのだということを再認識した次第です。

本年の美術館だより一月号新年のごあいさつで申し上げたように、空調を中心とする設備部門が、開館して二十年以上も経過すると老朽化が進み、ここ数年は故障が発生するようになりました。貴重な文化財や美術品を保存管理し、永久に後世に伝えていく重要な使命を持つ美術館としては限界に達した感があり、設備部門の全面取換え工事を実施することになったのです。それにここ数年、篤志家や作家の方々などから優れた美術品の寄附が数多くあり、また寺社などの所有しておられる文化財の保存管理の完全を期するため、寄託申し出が増加し、収蔵部門の増築をも行うことになったのです。こうした二つの工事が、今度のリニューアル工事の中心をなしています。

みなさん方もお気づきのように、ＪＲなど最近の交通機関の駅などには、そのほとんどにエスカレーターやエレベーターが設置されるようになりました。これは公共的建造物は、すべてバリアフリー化が法律によって義務化されたためです。それで今度の美術館のリニューアル工事についても、バリアフリー化を同時に行うことになりました。入口ロビーから一階へ下る階段や二階へ上がる階段にはエスカレーターが、また一階の企画展示室入口と、二階コレクション展示室入口とを結ぶエレベーターが設置されることになり、障害をお持ちの方やお年寄りには、階段を上り下りしなくとも済むようになります。

また最近の美術館は、入館者がくつろげるサービス部門が充実してきていますが、当館も入口ロビー周辺のレストランの拡張、ミュージアムショップの新設、ホール、講義室の多目的使用対応の設備充実、本多の森側からも入館できる入口の新設、美術館周辺の庭園の整備など、楽しめる美術館としての環境が設定されることになっています。

外部から電話の問い合わせがあるように、美術館の建築構造自体は実に見事にできており、建築構造では一部のガラス窓と天井、床面の手直しをする以外は、現状を全く変えず、風格をそのまま維持していきます。時々外壁のレンガはレンガ張りかという質問をうけることがありますが、全くそうではなくレンガを手積みで積み上げて壁面を造り、その背後にコンクリートを流し込むというまことに今日では考えられないような贅沢な方法をとっており、それが一種の風格につながっていると思われます。関心のある方は、もう一度近寄ってよく観察してみて下さい。このような建物は石川県内では、この美術館以外にはありません。

電話での問い合わせの中には、今度のリニューアル工事を、何か客寄せのデパートや温泉旅館のリニューアルと同等に考えられる方がおられ、税金の無駄使いではないかとお叱りのことばを頂いた方もおられましたが、私は前述のことをるる申し上げて納得して頂きました。結果として今度のリニューアル工事が、多くの入場者を迎えることにつながれば、これにこした事はありませんが、入場者をふやすことの目的だけのために行う工事ではないことのご理解を賜りたいと願っています。

しかしいずれにせよ、私共美術館職員には、リニューアル後の美術館が、今迄以上に県民に愛され、多くの人々に活用されるべき責務が課せられている事を肝に銘じ、一致団結して大いに努力していかなければならないと思っています。多くの方々のご意見をお寄せ下さることをお待ちしています。

休館中は、当館のコレクションを歴史博物館で展示するほか、県内の美術館でテーマを設定して企画展を開催し、富山県と新潟県では、大がかりなコレクションによる企画展も開催する予定でいます。場所を変えてコレクションを鑑賞するのも新しい発見が有るかも知れません。今後このだよりやマスコミを通していろいろと教育活動を含めて広報してまいります。多くの方々のご参加をお待ちしていま

日本の美

ー人・鳥・花そして風景ー

9月4日(火)～9月20日(木) 会期中無休
会場:石川県立歴史博物館 第1特別展示室

楠公未来記拝観図　狩野 探幽

九月三日より石川県立美術館は約一年間休館し改修工事に入るため、美術館のコレクション展示の一環として隣接の石川県立歴史博物館第一特別展示室で開催いたします。

今回はコレクションの中から、日本美の特徴の一つである花鳥風月、故事人物などをテーマとした多彩な表現を鑑賞していただくもので、まず、人物をテーマとしたものの中から、室町期の「人麿画像」、狩野探幽筆「楠公未来記拝観図」、狩野常信筆「義経図」、それに近代日本画の久保田米僊筆「大楠公義貞公誠忠之図」など展示します。「人麿画像」は、奈良時代の歌人柿本人麻呂を描いたもので、古くから「歌聖」として尊崇され、その肖像は和歌の上達を願って行われる「人麿影供」の本尊として掛けられたため多くの遺品が残っています。この作品もその一つです。「人麿影供」は、作歌に苦しんでいた栗田讃岐守兼房が、夢に現れた人麻呂の姿を描いて礼拝するうちに歌がうまくなったという故事に因んで始められたと伝えられています。

花や鳥を描いて自然を愛でる花鳥画は、もとは中国絵画における主要な画題のひとつとして唐時代末ごろに成立し、宋時代には隆盛を極めました。モティーフへの客観性、写実性を特色とする中国のものに比べて、我が国では特に近世以降、四季の花鳥風月を理想化、装飾化して描き出す独自の展開を遂げています。日本のみならず東洋で広く愛される花鳥画の華やかで繊細な世界を、久隅守景筆「花鳥図」、岸岱筆「芦に鶴図」、伊年印「四季草花図」、工芸では初代宮川香山作「色絵草花文浮彫火鉢」、田崎昭一郎作「稲穂蒔絵硯筥」などで展示紹介します。

小鳥に管早図　元賀

六十余州名所図絵 越後 親しらづ　歌川 広重

山水画は中国で発達した絵画のジャンルで、現実の風景の再現を意図した作品もあるが、写実による山岳樹木岩石河川などの風景要素を再構成した、「創造された風景」「心象風景」が多く、東洋画の主要な一部門です。日本の近世風景画もその流れの中にあり、「名所図」六曲一双、それに浮世絵の歌川広重作「六十余州名所図会」から七点と「名所江戸百景」から七点の計十四点、それに貝形の焼き物の合子に楼閣山水と人物を描いた粟生屋源右衛門作「色絵楼閣山水人物図貝形合子」など、日本画、版画、陶磁、漆工、染織、金工のそれぞれの分野から人・鳥・花・風景をテーマとした約四十五点余を展示します。

色絵楼閣山水人物図貝形合子
粟生屋源右衛門

金銀象嵌牡丹唐草文蝋燭台
銅器会社

古九谷と石川の工芸Ⅰ

会期:平成19年9月4日(火)～9月26日(水)
　　平成19年9月29日(土)～10月14日(日)
会場:石川県立歴史博物館　第2特別展示室

色絵布袋図平鉢　古九谷

十七世紀中頃、日本最初の色絵磁器として誕生した古九谷は、その質の高い装飾性から、近世を代表するやきものとしてきわめて高い評価を受けています。石川県立美術館の古九谷コレクションは、国内屈指の質量を誇り、これまで全国から多くの陶芸ファンが来館しています。しかし、九月三日から改装工事のため休館しますので、隣の石川県立歴史博物館第二特別展示室で特集展示します。

古九谷の魅力は、なんといっても文様意匠の重厚さ、格調の高さにあります。文様は力強い筆致でダイナミックに描かれ、色彩は深い緑・黄・紫などの絵具によって、器面全体に塗り込まれています。今回はコレクションの中から、古九谷を代表する「色絵布袋図平鉢」、「青手老松図平鉢」、「青手桜花散文平鉢」など九点展示し、また、同時に、江戸時代、歴代の加賀藩主によって育成されてきた伝統ある美術工芸を今日に受け継ぎ、多くの芸術院会員や重要無形文化財保持者（人間国宝）を生み出してきた「石川の工芸」の中から、陶芸では人間国宝の三代徳田八十吉作「耀彩鉢極光」と吉田美統作「釉裏金彩大山蓮花文鉢」、それに北出塔次郎作「色絵田園図飾皿」、北出不二雄作「青釉暮色」を、漆芸では人間国宝の大場松魚作「平文光輪箱」、寺井直次作「白鷺蒔絵箱」、それに小松芳光作「夕顔軸盆」、角野岩次作「象嵌陽炎飾皿」を展示します。染織では前期、後期に分けて毎田仁郎作友禅訪問着「佳秋」と「からまつ」、水野博作友禅訪問着「ふみ月」、「蒼林の譜」を、金工は加賀象嵌の高橋介州作「神韻大香炉」と金岡宗幸作「砂張水指海原」、木工は水上荘詠作「神代欅拭漆盛鉢」、人形では前期は紺谷力作「彩塑人形神事鵜祭」を、後期は斎藤悦子作「香気波」を展示紹介します。

れきはく展示室のご案内

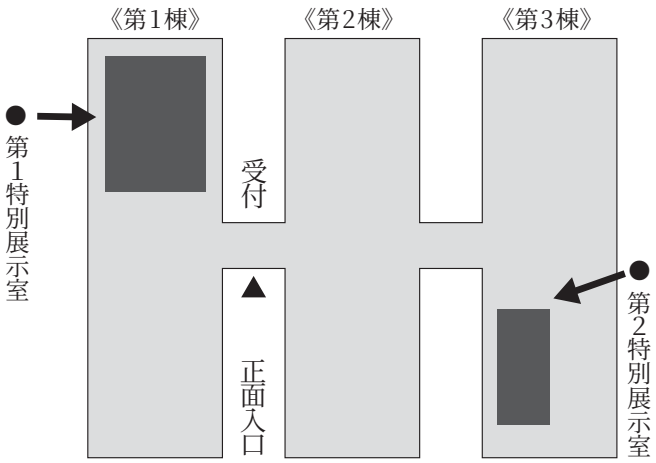
リニューアル工事に伴い、本年9月4日より当館コレクションを展示いたします石川県立歴史博物館の展示室をご案内いたします。

すでに何度も足を運ばれている方が大半かと思われますが、念のため所在地、展示室をご案内いたします。

所在地は当館と本多の森公園をはさんで南東に位置し、徒歩2分。

当館コレクションを展示するスペースはいずれも1階にあり、第1棟の第一特別展示室、第3棟の第2特別展示室となります。展示場所が離れていますので御注意下さい。

石川県立歴史博物館
金沢市出羽町3－1
TEL（076）262－3236
開館時間／午前9時～午後5時
（入館は午後4時30分まで）
休館日／年末年始(12月29日～1月3日)
資料展示替え・整理の期間
入館料／一般250円（団体200円）
※団体は20人以上
大学生200円（団体160円）
高校生以下無料



石川県立歴史博物館　1階平面図

講演会記録　師 高光一也の思い出……画家 藤森兼明

藤森 兼明氏

私は富山庄川の生まれだが、福光、城端、井波、庄川辺りは昔の旧加賀藩領で浄土真宗が非常に盛んな地だった。そこへ高光先生のお父さん大船先生が戦前から足繁く布教に来られ、たまに若が同行された。その方が高光先生で、絵のとても上手い先生だと母や祖母から聞いたものだった。私は絵を描くことしか興味のない子供で、高校も高岡工芸高校の図案絵画科、ここは高光先生が出た金沢の県立工業学校の図案絵画科とよく似ていて、卒業後は東京の美術学校に行きたいと思っていた。親に相談すると、家計が苦しいから仕送りはできない、金沢に美大があるからそこならばとのことで受験した。

美大の入学式の際に高光先生に呼び出され、「実技はうまかったが、学科はひどいものだった。特に英語、開校以来白紙の答案用紙を出したのは前例がない。迷って、森田（亀之助）校長にうかがったところ、『将来どう化けるか分からないから、一人ぐらいそういう生徒がいてもいいだろう、面倒見なさい』ということで、入学させることにした」。それが、先生との出会いだった。それから日をおかずに、今後のことや家の経済状況などを聞かれて、「絵描きになるのは生やさしいものではない。時間があったら家に来て絵を描きまっし」とおっしゃられ、その月から北間の先生の家へ出入りして、家族の一員のように接していただいた。

先生はああしろこうしろというようなことは一切なく、請わば教えるという感じだった。ある時、「絵は上手にこしたことはない、だが、上手とうまいと、いいのは違う。おまえはまだ上手のはしり程度で、うまいもいいも先のことやな」と言われたことがあった。上手は表現力、うまいは技巧がそれに加わり、いいは人の心を打つ。先生の絵は、最初は上手でうまくて、50代の後半から人の心を打つ良さ、凄さが出てくる。そういう完結した流れがある。

３年の時、日展の絵を先生の家で制作せよということで、夏休みは北間で過ごした。一瞥し「だめやな」。なにがだめかと聞くと「だめなものはだめや。自分で考えまっし」。一生懸命描いて苦しんで、その甲斐あって入選させていただいて、都の美術館へ先生と一緒に行ったが、そのとき先生の師である中村研一先生のお宅に伺った。道すがら「先生の前では、顔を上げるな、目を合わすな、一言もしゃべるな。先生はいらぬことを言われるのが大嫌いだ。ただ一言ありがとうございましたとだけで、帰るまで下向いていろ」と言われた。畏敬の念で接して来られた中村先生に対する先生の思いだった。中村先生に対しては絶対的というか、神様というか、そういう気持ちをずっと持ってらっしゃった。

卒業の時期になり、先生は「助手を一人入れようかと思うが、助手の薄給ではおまえの家の状況を考えるとやっていけない。ちょうどいい仕事の口があるから受けてみろ」とおっしゃった。輸出向け陶器の会社の求人で、給料は破格、入社後はアメリカに5年間滞在するというものだった。校内で試験があり、デザイン科などから20名ほどの応募があった。試験は実技と英語で、元々受かる気はないから30分ほどで切り上げ、英語は真っ新のままで出した。ところが、私一人が合格してしまった。地獄の底に突き落とされた気がして、泣いて先生に断ってくれと頼んだのだが、そんなことはできないときつく叱られる始末だった。

アメリカへ行き、帰国後は名古屋に移った。10数年絵から離れて、私としては非常につらい時期だった。とうとう決心して、「もう一回絵を描き始めますからよろしく」と先生にお願いした。「本当に描くのか、十数年もブランクがあって今更絵を描くということがどういうことか分かっているのか」と、それまでに見たことがないほどの複雑でいやな顔をされた。だが、その後先生は私のために大変な骨折りをされ、ブランクを埋めていただいた。ある画家からは苦言を呈され、地域画壇のヒエラルキーを壊すと名指しされたこともあった。ようやく、先生のあのときの表情、言葉が少し分かってきたものだった。

先生は鉛筆や木炭で下書きするということはなく、じっと見ていて、太めの筆で中間色のおつゆ描きで当たりをつけ、一気にはき出すという描き方だった。描き出しは禁欲的に絵具の種類は少ない。きかせ所の鮮やかな絵具は最後にパレットに出された。若い時は筆で塗って描き、中期の50歳前後になるとナイフなどを使って絵具を付け、ものとして画面が視覚効果を上げるように絵を造られた。「馬に凭る」の頃はもう絵ではない。厚塗りの絵具を彫り込み、切り刻み、鋼の彫塑用の刃物や櫛状の道具を使って、質感を求めていった。これは女性の手だから柔らかくという質感ではなく、絵具とキャンバスとが醸しだす質感を求められた。絵ではなく、半立体作品という思いがする。

どの時期が一番いいかということは私には分からないが、最終章にかけ、自分の生きざまをきちんと整理しておきたい、それにはああいう方法しかなかったのだという先生の思いが画面から伝わってくる。後生に残すにはこのくらいしなければと、自問自答しながら、刻み込まれたのではないか。すばらしい、凄いという前に、ここまでやらなければならなかったのかという、悲壮感を感じ、感慨無量である。

（高光一也の画業展にあわせまして、４月22日(日)に当館ホールで行われた講演会内容を当館の責任で要約したものです）

ミュージアムレポート

どこでもミュージアム in 松任小 ――7月4日(水)

17年度より教育普及事業の一環として「どこでもミュージアム」と題し、学校へ当館の所蔵品を持って行き作品鑑賞を行う「出前講座」があります。今年度最初は７月４日に白山市立松任小学校３年生と作品鑑賞授業を行いました。

展示作品は全部で１３点。画材の説明などを行った後、クイズを交えながら作品の鑑賞を一緒に行いました。どの児童も真剣な眼差しがとても印象的で、こちらからの問いかけに、作品から受けた素直な感想をたくさん発言してもらえました。また、各自で自由に作品を鑑賞する時間も取り、好きな作品・気になる作品についても発言してもらいました。

限られた時間内での作品鑑賞ではありましたが、児童や教師の皆さんからたくさんの感動の言葉を頂きました。また、その週末には母親と美術館へ「作品にあいに来た」児童も。ありがとうございます。休館中は多くの学校にお邪魔します。私たちと学校でたくさんの美術に親しみましょう。

ギャラリートーク 石川県ゆかりの芸術院会員・人間国宝 ――7月7日(土)

９月３日からの１年間の休館を前にして、所蔵品の中から出来る限り優れた作品を観ていただこうという特集展示であり、とにかく説明すべき点が多い作家や作品ばかりが並んで、石川県における美術工芸作家の層の厚さを再認識しました。細かいエピソードや見どころをあれこれ説明したところ１時間30分を超えてしまいましたが、長時間に渡って熱心に聴いて下さった方々が何人もいらっしゃいました。この場を借りてお礼を申し上げます。

キッズ☆鑑賞講座 ――7月14日(土)「コレクション展示室の古美術を鑑賞しよう」

９月からの休館を前に、最後の講座となった今回は、第２展示室の加賀の美術工芸を鑑賞しました。展示室へ出かける前に、絵画では右から左へ話が展開していくことを、「鳥獣戯画」の複製版を使って確認していきました。巻物を順に広げ、顔や体の向きで物語の流れがわかってくると「次に何が現れるか」予測する子どもたちも現れ、楽しいひとときでした。

掛軸の巻き方、広げ方の体験では、初めて扱う掛軸に驚きの声も上がっていました。

キッズ☆プログラム体験講座　夏休み 親子で楽しむ美術館

夏休み中の特集展示として、親子で、わかりやすく、楽しみながら美術鑑賞が出来るようにと企画しました「親子で楽しむ美術館」ですが、その展覧会にあわせて、今年も小学生とその保護者を対象に作品鑑賞と材料の制作体験を楽しむキッズ☆プログラム体験講座を行いました。今年も定員をはるかに上回る応募を頂き、改めて関心の高さに驚かされました。ありがとうございました。

◆７月３１日(火)ねんどでつくろう！

（午前　小学1年生・午後　小学2年生）第４展示室親子で楽しむ美術館と、色絵雉香炉・古美術の展示を鑑賞した後、ねんどでの制作に挑戦しました。様々な材料・大きさで出来ている彫刻作品を鑑賞する子供たちの目は真剣そのものでした。また、ねんどでの制作は、紙ねんどとLEDライトを使った光るオブジェに挑戦しました。ペットボトルを心材に、思い思いのかたちに挑戦し、出来上がった作品にライトを入れたときには思わず歓声が上がりました。

◆８月２日(木)工芸に挑戦！

（小学 3・4 年生）　親子で楽しむ美術館と工芸の展示室である第５展示室で、材質・技法について解説を聞きながらの作品鑑賞に、素晴らしい鑑賞眼を発揮していました。鑑賞後には輪ゴムを使っての絞り染めに挑戦しました。白い布を輪ゴムでとめ、染液に浸し染め上げます。染め上がった作品の輪ゴムを一つ一つ外していくときのわくわくした表情がとても印象的でした。

◆８月４日(土)　油絵に挑戦！

（小学 5・6 年生）　親子で楽しむ美術館と白山を描いた作品が並ぶ第６展示室で絵画の作品について、画材の違いを感じ取り、それぞれの作品の放つ力を汲み取り、作品鑑賞をしました。その後、油絵の材料・制作体験に挑戦です。油絵の具を使用するのが初めての親子がほとんどで、モチーフの並べ方から、絵の具の基本的な扱い方まで、真剣なまなざしで取り組んでいました。

このように３日間の行事を終了したわけですが、行事終了後には、作品をみることの楽しさ・つくることの楽しさ両面について、たくさんの感想を頂き、大変嬉しく思っております。ありがとうございました。来年度は改修工事のため、まだ休館中ではありますが、どこか場所をかえて体験講座を行えればと思っております。

＊当館のホームページに制作作品を紹介しています。ぜひご覧下さい。
URL http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp

参加者募集！

第5回 美術館バスツアー

「霊峰白山と前田家にまつわる美を探訪する」

今回バスツアーは白山信仰とその美術、また前田家（特に三代利常）にまつわる美を探訪しようとする企画です。皆様のご参加をお待ちしております。

期　　日:１０月２８日(日)
参 加 費:５,６００円(会員外５,８００円)
募集定員:４０名(対象は原則として成人)

【見学予定地】

◆白山比咩神社宝物館
重要文化財の狛犬をはじめ、その他の指定物件を解説してもらいます。

◆林西寺、白山本地堂
重要文化財の銅造十一面観音立像はもちろん、江戸後期に建立された林西寺本堂や堂内の欄間も必見です。

◆石川県立白山ろく民俗資料館
重要文化財を含む建造物が六棟あり、豪雪地帯にあって、知恵を出し合って生き抜いた山の人達の素朴な民俗文化遺産を保存展示しています。

◆那谷寺
本堂他５棟の重要文化財や名勝「琉美園」（庭園）をご住職に解説して頂きます。

◆小松市立博物館（仙叟屋敷）
特別展「小松と仙叟」を開催中。まずは茶室でお茶とお菓子を味わいながら前田利常が茶道茶具奉行として招いた仙叟の美を探るところから始めましょう。

【申込み方法】

◇往復はがきに下記の事項をご記入し、ご応募下さい。
返信はがきにて参加証を発行します。応募多数の場合は抽選となります。

①往信はがき裏面に「美術館バスツアー希望」と明記し、住所・氏名・年齢・会員番号（友の会会員のみ）をお書き下さい。

②返信はがきの表面には、確実にお手元に届くように返信先（住所・氏名）をはっきりとお書き下さい。

③返信はがきの裏面には、何も書かないで下さい。

◇応募先　　〒920-0963 金沢市出羽町２－１
石川県立美術館　美術館バスツアー係
◇応募締切　平成１９年９月２４日(月)必着
※応募者１名につき、往復はがき１通でご応募ください。
お一人で何通も出されたものや、連名のもの、記載事項が不備なものなどは無効となりますのでご注意下さい。
※当館からの返信は、再発行しません。

こちらでも、当館の所蔵品が見られます。

石川県七尾美術館

展覧会:石川の歴史と文化再発見(後期)
茶の湯の美術
～石川県立美術館所蔵の名品を中心に～
会　期:平成19年9月22日～10月28日
◆銀象嵌水車文鐙　銘加州住勝國
◆銀象嵌丁子散文鐙　銘加州金沢住氏政
◆猿廻し図　久隅守景
◆重文 色絵梅花図平水指　野々村仁清
他30点
美術講座
10月7日､14日　午後2時
講師:嶋崎　丞 石川県立美術館館長

金沢能楽美術館

展覧会:前田家ゆかりの能面と能装束
会　期:平成19年9月29日～10月28日
◆猩々(能面)
◆重文 緑地桐鳳凰文唐織
◆桃色地山道文摺箔
他16点

式年遷宮記念 神宮美術館

展覧会:神宮奉納美術ー心とかたちー
会　期:平成19年9月20日～11月25日
◆ペギーへの道　藤本東一良

石川県輪島漆芸美術館

展覧会:郷土の美術
ー石川県立美術館の所蔵作品よりー
会　期:平成19年10月13日～11月19日
◆青手老松図平鉢　古九谷
◆燿彩鉢　三代徳田八十吉
◆友禅訪問着「金鶏」　木村雨山
◆春めく　村田省三　　他46点

金沢卯辰山工芸工房

展覧会:染織にみる技と美
会　期:平成19年9月29日～10月29日
◆友禅宝船文のれん
◆友禅松竹梅丸文夜着
他3点

石川県立歴史博物館

展覧会:石川のお宝史
ー名宝から文化財へー
会　期:平成19年9月29日～11月11日
◆仰観俯察(書跡)　木戸孝允

埼玉県立近代美術館

展覧会:光と大地の協奏
～近代絵画に見る自然と人間～
会　期:平成19年10月27日～12月16日
◆農夫とカラス　浅井　忠

小松市立本陣記念美術館

展覧会:石川県立美術館所蔵品と
本陣コレクションで観る故郷ゆかりの
日本画家たち
会　期:平成19年10月13日～11月11日
◆海山十題　東山魁夷
◆虎図　岸駒　　他6点

小松市立宮本三郎美術館

展覧会:ヨーロッパへの憧れ
ー洋画家は欧州を目指すー
会　期:平成19年9月29日～11月25日
◆裸婦像　宮本三郎

小松市立宮本三郎美術館別館 宮本三郎ふるさと館

展覧会:石川県立美術館所蔵　宮本三郎名品展
会　期:平成19年9月29日～11月25日
◆赤いクッション　　宮本三郎
◆立裸婦　　宮本三郎
◆裸女達に捧ぐ　　宮本三郎　　他11点

新潟県立近代美術館

展覧会:日本のわざと美
ー重要無形文化財とそれを支える人々ー
会　期:平成19年10月6日～11月11日
◆釉裏金彩鉄線文大皿　吉田美統　　他3点

所蔵品紹介 180

八百屋之図（やおやのず）

紺谷（こんたに） 光俊（こうしゅん）
明治23年(1890)～昭和20年(1945)

大正3年(1914)
縦173.0　横85.5(cm)

八百屋の店先で、少女が買い物をしている情景が描かれています。少女は頭に赤いリボンを付け、焦げ茶の暖かそうな晴れ着と白いエプロンが鮮明なコントラストをなしています。一方、八百屋のおかみさんは、綺麗に日本髪を結い、落ち着いた紺の着物を身に付け、少女に品物を手渡しています。二人の間には楽しい会話が聞こえてきそうです。

店先には、大根やみつば、人参、里芋、クワイ等の野菜や、蜜柑やバナナといった果物に加え、小豆を敷きつめた箱にはきれいに卵が並べられているのがわかります。また、上方には追い羽根が吊してあったりすることから、年末かお正月の時期の光景なのでしょう。

一つ一つのモティーフを張りのある線描で形取り、明るく穏やかな色彩を用いて、ほのぼのとした印象を与える表現となっています。

金沢市に生まれた光俊は、10歳の頃から絵画の手ほどきを高村右暁に受け、画技を磨いていきます。そして10代の後半には北陸絵画協会展で受賞を繰り返すなど、その頭角を現していきました。明治45年頃から京都で山元春挙に師事するようになり、大正期に入ると文展へも入選を果たしています。その後、金沢へ戻ると13年金城画壇を結成、この時から昭和19年まで審査員をつとめ、その繊細な筆致と豊かな色彩で、美人画、歴史風俗画などを中心に手腕を発揮し、郷土の画壇の進展に努めていきました。

移動美術展のお知らせ

今年度は穴水町で開催

会場：のとふれあい文化センター 多目的学習室(鳳珠郡穴水町内浦5-28-3 TEL：0768-52-3401)
会期：９月１６日(日)～２３日(日)　会期中無休　午前９時～午後６時
　　(9／16は開会式のため、午前10時30分の開場となります)
入場料：無料

今年度の移動美術展は、本年３月に起きた能登半島地震の影響が懸念されましたが、穴水町で開催の運びとなりました。かつて同町では平成元年に行われており、18年ぶりの開催となります。会場となるのとふれあい文化センターは、従来の会場より若干狭く、そのため展示する作品数は少なめですが、当館の所蔵になる日本画・油彩画・彫塑・浮世絵版画の中から選りすぐりの秀作４２点を展示しますので、どうぞご期待下さい。皆様のご来場をお待ちしております。

裸女達に捧ぐ 宮本三郎作

次回の当館展覧会
石川県立歴史博物館が会場になります

コレクション展示	古九谷と石川の工芸 II

石川県立美術館だより 第287号
2007年9月1日発行

〒920-0963 金沢市出羽町2番1号
Tel:076(231)7580　Fax:076(224)9550
URL http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp

R100
古紙配合率100%再生紙を使用しています。